

会期中の併催イベント

会長講演・表彰式

日時：3月26日(月) 13:40-15:20
会場：SG会場(第6校舎1階613教室)

プログラム

13:40- 会長講演「科学の夢交配と化学の展望」(平成22, 23年度
会長) 岩澤康裕
14:20- 表彰式

スプリングコンサート2012

日時：3月26日(月) 16:00-17:00
会場：SG会場(第6校舎1階613教室)

化学オーケストラ：日本化学会会員を中心として、広く化学関係者により2002年に結成された音楽団体で、例年、日本化学会春季年会会期中に「スプリングコンサート」を開催しています。今回は、昨年9月のドイツ化学会年会オープニングセレモニー(於：ドイツ・プレーメン)や、同10月の千代田区オーケストラフェスティバル(於：大手町・日経ホール)において演奏した曲を織り交ぜながら、親しみやすいクラシック音楽でお楽しみいただきます。

曲目：モーツァルト/歌劇「フィガロの結婚」序曲、ブラームス/ハンガリー舞曲集(第1・5・6番)、ブラームス/ハイドンの主題による変奏曲、J. シュトラウスII/ワルツ「春の声」。

参加費：無料

付設展示会：昨年のドイツ化学会年会オープニングセレモニーにおける記念演奏(日独交流150周年記念行事)の報告と、化学オーケストラ設立10周年記念に関するブースを出展いたします。あわせてお立ち寄り下さい。

問合せ先：日本化学会事務局 保倉光邦

E-mail: hokura@chemistry.or.jp

懇親会

日時：3月26日(月) 18:00-20:00
会場：日吉キャンパス 学生食堂

今回の懇親会では世代を超えて各界各層の懇談の場とするべくより実質的な企画となっております。先生方におかれましては学生の参加費は低く抑えておりますので、ぜひお誘いあわせの上ご参加いただけますと幸いです。

参加費：一般6,000円、学生2,500円

申込方法：年会会場内の総合受付にてお申し込み下さい。

ATP交流会

日時：3月27日(火) 18:00-19:30
会場：日吉キャンパス 学生食堂

ATP講演やATPポスターの会場で足りなかったディスカッションを補い、より親密な交流につなげてもらう場として、ATP交流会を設けました。

交流会の中では、今期新設したATPポスターの中から審査・選考された「ATP注目ポスター」を発表し、記念品贈呈も行われます。ATPポスター発表者の皆様はもとより、産業界、学生も含めたアカデミア、国研など、産学官の多くの皆様にご参加いただき、新たな交流やネットワークづくりに役立てていただければと

思います。アルコールやソフトドリンクと軽食を用意して、お待ちしております。のどをうるおしながら、化学の『夢』を大いに語り合しましょう。

参加費：無料

申込方法：年会参加者はどなたでも参加できます。

事前申込みは不要ですので、直接会場へお越し下さい。

市民公開講座 ～科学で未来をきり拓く～

日時：3月25日(日) 13:15-17:00
会場：S5会場(第4校舎独立館DB203教室)

日本化学会第92春季年会(2012)実行委員会では、一般市民の方を対象とする恒例の「市民公開講座」を下記の内容で企画いたしました。今回は市民の方々の生活に密接に関連した身近な話題を、専門の先生方にやさしくお話ししていただきます。どの先生もそれぞれの分野でご活躍の著名な先生方ですので、十分楽しんでいただける半日になると思います。奮ってご参加下さい。

プログラム

13:20- 宇宙は無数にあるのか?—物理学の描く新たな宇宙像—
(自然科学研究機構・機構長/東大・名誉教授) 佐藤勝彦
14:10- 東日本大震災と巨大津波(東大地震研・教授) 古村孝志
15:20- 眠る植物と食虫植物の科学—不思議な生物現象の化学—
(東北大院理・教授) 上田 実
16:10- 太陽光と水からつくる無限のクリーンエネルギー—人工
光合成への挑戦—(東大院工・教授) 堂免一成

参加費：無料

申込方法：事前申込み不要。当日会場にて受付。

問合せ先：日本化学会 企画部 年会係

電話(03)3292-6163

E-mail: nenkai@chemistry.or.jp

【緊急企画】 福島第一原子力発電所事故から 1年：環境放射線(能) モニタリングデータの検証

日時：3月28日(水) 9:30-11:30
会場：S5会場(第4校舎独立館DB203教室)

東京電力福島第一原子力発電所の事故が発生してからほぼ1年が経過した。事故発生当時、発表された環境モニタリングデータの確からしさの確認がなされていなかったことも含め、いまだ事故直後の環境中の放射線の状況が詳細に把握されていない。そのような中で、環境モニタリングデータが埋もれないように、できるだけ早い時期にデータの確からしさを検証し、データベース化することにより、確度の高い情報発信を世界に向けて発信する必要がある。そこで日本放射化学会では「福島プロジェクト」を昨年11月に立ち上げ、データ収集を開始しているところである。本企画では、モニタリング結果にかかわるいくつかの報告を最新の情報を交えて行う。

プログラム

09:30- 趣旨説明(日本放射化学会会長、原子力機構) 永目諭一郎
09:35- 文部科学省「福島土壌調査」：全国大学等の連携による土壌調査プロジェクトの経緯と概要(阪大) 篠原 厚
10:05- 放射性物質の環境における分布と農産物への移行：現地での調査から分かってきたこと(学習院大) 村松康行
10:35- 環境放射線モニタリングの方法と問題点および今後の見通し(京大) 高宮幸一
10:50- 雨水および水道水からの放射性物質の除去方法(原子力機構) 安田健一郎
11:05- 農作物のモニタリングと調理加工による除染方法(放医研) 田上恵子

11:15- 総合討論:どのようなモニタリングデータが求められているのか?

参加費: 年会参加登録者に限る。

申込方法: 事前申込み不要。直接会場にお越し下さい。

問合せ先: 日本化学会 企画部 年会係

電話(03)3292-6163

E-mail: nenkai@chemistry.or.jp

付設展示会

主催: 日本化学会

共催: 慶應義塾大学理工学部

協力: (株)化学工業日報社

後援: 日本科学機器団体連合会・社団法人日本分析機器工業会・日本薬科機器協会・一般社団法人日本試薬協会

日時: 3月25日(日)~27日(火) 10:00-17:00(最終日のみ17:30まで)

会場: 慶應義塾大学 日吉キャンパス【日吉記念館】

参加費: 無料

出展社: (1月23日現在)

RSC(英国化学会), (株)アイシス, (株)アサイラムテクノロジー, 朝日分光(株), アステック(株), (株)アポロウェブ, (株)アントンパール・ジャパン, 米国法人 Wavefunction, Inc., ウシオ電機(株), HPC システムズ(株), ACS Publications, (株)エヌ・ティー・エス, (株)エル・エム・エス, エルゼビア・ジャパン(株), オーシャン フォトニクス(株), 大塚電子(株), オプトシリウス(株), 化学オーケストラ (Orchestra Chimica), 独立行政法人科学技術振興機構, 一般社団法人化学情報協会, (株)化学同人, カクタス・コミュニケーションズ(株), 関東化学(株), (有)桐山製作所, クワフ産業(株), (株)グループボックス・ジャパン, (株)講談社サイエンティフィック, 光明理化学工業(株), コクヨS&T(株), コンプレックス(株), サンユー電子(株), シグマ アルドリッチ ジャパン(株), 四国計測工業(株), システム・インストルメンツ(株), 柴田科学(株), ジャパンハイテック(株), シュプリンガー・ジャパン(株), シュレーディンガー(株), 純正化学(株), シリス ジャパン(株), 新科産業(有), (株)スギヤマゲン, 日本ゼオン(株), (株)セントラル科学貿易, (株)ダイセル, 大陽日酸(株), WDB(株), (株)中央理化, (株)デジタルデータマネジメント, Taylor & Francis Group (CRC Press), (株)テクネクス工房, (株)テンキューブ研究所, (株)東京インストルメンツ, (株)東京化学同人, 東京化成工業(株), トムソン・ロイター・プロフェッショナル(株), (株)中村超硬, ナカライテック(株), 公益社団法人日本化学会 会員委員会, 公益社団法人日本化学会 学術情報部, 公益社団法人日本技術士会 化学部会, 日本電子(株), 日本分光(株), 日本分析工業(株), ノーザンサイエンスコンサルティング(株), バイオタージ・ジャパン(株), (株)パキューブランド サイエントフィック ジャパン, 浜松ホトニクス(株), (株)ピアソン桐原, ビー・エー・エス(株), ヒドラス化学(株), (株)ヒューリンクス, 富士シリシア化学(株), 富士通(株), ブルカー・エイエックスエス(株), ブルカー・ダルトニクス(株), ブルカー・バイオスピリン(株), (株)フレックス, 丸善(株)卸営業部, 丸善出版(株), 山善(株), ユサコ(株), (株)UNICO, (株)ユニソク, (株)ライトストーン, (株)リガク, (株)菱化システム, (株)レッチェ, (株)ワイエムシー, ワイリー・ジャパン, 和光純薬工業(株), 渡辺化学工業(株)

Reaxysセミナー ~合成化学研究の効率化を 目指して~

主催: エルゼビア・ジャパン(株)

日時: 3月25日(日) 10:00-11:40

会場: SK 会場(矢上キャンパス11棟11-31教室)

本セミナーでは、世界最大規模の反応・化合物データベース、Reaxys(リアクシス)の最新情報をご案内するとともに、ユーザーの先生方から実際の研究における活用例をご紹介します。現在お使いの皆様には活用方法の新たな発見を、導入をご検討中の方々には研究効率の飛躍的な改善のヒントをご提案します。

Reaxysは、有機化学、無機化学、有機金属・錯体分野の合成反応や実測物性値を取録し、2009年にリリースされた世界最大規模のデータベースです。ケミストの皆様が日々直面する様々な課題

の解決一確実で最適な合成法の選択、条件違いの反応の比較検討、類似反応の抽出、ノイズの除去などをサポートし、同時利用者数の制限がなく使い勝手のよいベンチサイドツールとして、大学や企業での導入が進んでいます。

プログラム

10:00- 開会挨拶(慶大理工・教授) 垣内史敏

10:10- Reaxys 最新情報(エルゼビア) 齋藤美里

10:30- 事例① 天然物の全合成研究における Reaxys 活用法(仮)
(慶大理工・助教) 佐藤隆章

11:00- 事例② 有機金属錯体の研究における Reaxys 活用法(仮)
(阪大院工・助教) 大橋理人

11:30- Q&A

参加費: 無料

申込方法: 直接会場へお越し下さい。

問合せ先: エルゼビア・ジャパン(株) マーケティング

電話(03)5561-5034

E-mail: jp.pr@elsevier.com

その他: 書籍展示ブース(日吉記念館)の Reaxys デモにもぜひお立ち寄り下さい。

中西シンポジウム2012

主催: 日本化学会 天然物化学・生命科学ディビジョン,
中西シンポジウム実行委員会

日時: 3月25日(日) 13:30-17:30

会場: S3 会場(第4校舎独立館DB201教室)

中西シンポジウムは、日本化学会と米国化学会との取決めに より偶数年度は日本で、奇数年度は米国にて選考されるナカニシプ ライズの受賞講演を含み、該当国で交互に開催されている。本プ ライズは生物活性天然物の単離、構造解析、生物機能、合成成 及び全合成分野での顕著な研究業績を対象に選考され、本年度は本 化学会に設置された選考委員会によって、上村大輔教授(神奈川 大学教授)に授与されることに決定した。よって本企画は選考理 由である「海洋天然物の生物有機化学的研究における貢献」に基 づき、受賞者による講演に加えてこれに関連する最新の研究成果 を周辺分野の研究者に紹介していただく。

プログラム

13:30- ナカニシプライズ授賞式 会長 岩澤康裕より授与

ナカニシプライズ 2012 授賞者 上村大輔

14:00- 海綿由来の新しい医薬シーズの探索(阪大院薬) 小林資正

14:30- ラジカル反応を基軸とする複雑天然物の合成

(東大院薬) 井上将行

15:10- 感染症の制御に向けた化学からのアプローチ

(東北大院生命) 有本博一

15:40- Retrospect on the Stereochemistry Assignment of the Marine Natural Product Palytoxin (ハーバード大) 岸 義人

16:20- 受賞講演

生物現象に着目した生物活性天然物の探索研究

(神奈川大理) 上村大輔

参加費: 無料

申込方法: 事前申込み不要。直接会場にお越し下さい。

問合せ先: 日本化学会 企画部 井植田

電話(03)3292-6163

E-mail: ihida@chemistry.or.jp

第6回化学遺産市民公開講座

企画: 日本化学会化学遺産委員会

主催: 日本化学会・化学史学会

共催(予定): 日本化学工業協会

日時: 3月25日(日) 13:00-17:00

会場: SC 会場(第4校舎独立館D310教室)

化学遺産委員会では、一昨年度から化学関連の学術遺産あるい は化学技術・産業遺産の中で特に歴史的に高い価値を有する貴重 な資料を認定する『化学遺産認定制度』を開始し第1回として6 件を、また第2回として4件をそれぞれ認定・顕彰した。平成23 年度も前年度同様に化学遺産認定候補を一般市民・会員諸氏より 公募するとともに、委員会でも認定候補として相応しいものを選 定し、対象候補20件を委員会でさらに調査・検証作業を行っ

た。今回の市民公開講座では、本年度第3回化学遺産として認定された具体的内容を紹介する。

プログラム

開会挨拶・紹介『日本化学会化学遺産委員会その活動の現状』（日本化学会化学遺産委員会委員長／京都大学名誉教授・岡山理科大学教授）植村 榮

講演1 認定化学遺産 11：大学博物館による化学遺産の発掘：眞島利行ウルシオール研究関連資料

（大阪大学理事・副学長）江口太郎

講演2 認定化学遺産 12：田丸節郎資料（写真および書簡集）（東京大学名誉教授）田丸謙二

講演3 認定化学遺産 13：鈴木梅太郎ビタミン B₁ 発見関係資料（東京大学名誉教授）荒井綜一（予定）

講演4 認定化学遺産 14：日本の合成染料工業発祥に関するベンゼン精製装置

（本州化学工業（株））交渉中

講演5 認定化学遺産 15：日本初期の塩化ビニル樹脂成形加工品（アロン化成（株）ものづくりセンター長）増田紀之

講演6 認定化学遺産 16：現代にも生きる国産合成繊維ビニロンの承譜

（日本化学会フェロー）田島慶三

講演7 認定化学遺産 17：小野田セメント徳利寮が語るもの

（元太平洋セメント（株）小野田工場長）台信富寿

開会挨拶（日本化学会化学遺産委員会顧問）三浦勇一

参加費：無料。講演資料代1,000円（予備）

申込方法：化学遺産市民公開講座参加希望と標記し、氏名・所属・連絡先住所・電話番号・FAX、E-mailを明記し下記宛お申し込み下さい。当日参加もできます。

問合せ先：日本化学会 企画部 化学遺産委員会係

FAX (03) 3292-6318

E-mail: chemarch@chemistry.or.jp

企業で活躍する博士たち

主催：日本化学会 産学交流委員会 産学人材交流小委員会

日時：3月25日（日）13:00-17:20

会場：S4 会場（第4校舎独立館 DB202 教室）

科学技術で生き残りを図る日本において、科学技術を推進する原動力、イノベーションの担い手として、学においても産においても高度な知識と研究開発力を持った博士人材が非常に期待されています。一方で、博士課程在学生在に企業・社会を実際に学ぶ機会が少なく、産に目を向ける場面が少ないのが実情です。また、産においても博士の活用は数居が高い企業がまだあります。日本化学会では、平成19年度より、化学系学生を対象に「博士セミナー」を開催し、産業界をもっと知ってもらおう試みを行ってきました。今回は、企業の中で活躍する博士たちを紹介することで、より一層産業界での博士の活躍の場を増やしたいと考えております。

なお、セミナーの対象者は、博士課程在籍者、博士課程進学希望の修士課程在籍者、ポスドク研究者及び博士セミナーに関心をお持ちの産学官の皆様とともに、博士の採用を検討している企業関係の方を考えています。

プログラム

13:00-13:30 博士研究者に対する期待

長瀬公一 氏（産学人材交流小委員会委員長，東レ株式会社）

13:40-14:40 イノベーションの期待

府川伊三郎福井工業大学教授（元旭化成）

14:50-17:20 企業の若手博士研究者による研究開発事例紹介とパネル討論

参加費：無料

申込方法：事前登録不要。直接会場にお越し下さい。

問合せ先：日本化学会 企画部 松原

電話 (03) 3292-6163

E-mail: matsubara@chemistry.or.jp

未来を拓く社会からのメッセージ ～あなたのキャリアデザインのために～

主催：日本化学会男女共同参画推進委員会

日時：3月25日（日）14:00～17:00

会場：SD 会場（第4校舎独立館 D311 教室）

男女共同参画社会の実現を目指して日本化学会ではこれまでに11回のシンポジウムを開催するとともに提言を行ってきました。国際社会と比較して一層の努力が必要であるものの、日本においても男女共同参画社会実現に向けた組織と意識の変化が進んでいるのも事実です。一方、東日本大震災をきっかけとして、日本は新たな生活スタイルや価値観の構築を模索しています。

本シンポジウムでは、これまでの女性の社会進出を振り返りつつ、男女共同参画が進む組織の運営とその実施経験から学び、今後の展望を共有します。特に、これから社会へ飛翔する若手の人生選択においてヒントとなる知識や価値観の提供を目指します。

プログラム

14:00- 開会挨拶 平成22、23年度日本化学会会長 岩澤康裕

14:05- 趣旨説明（シンポジウム実行委員長）宍戸 厚

基調講演

14:10- 夢と化学とライフデザイン

（男女共同参画推進委員会委員長・東海大名誉教授）佐々木政子
依頼講演：組織の仕組み、育児と仕事の両立経験、新展開

14:50- 資生堂リサーチセンター：“Gender Equal Society”を目指して（資生堂 研究管理部 総務室長）石野章博

15:10- NTT 研究所の男女共同参画の取り組みと私のワークライフバランス（NTT マイクロシステムインテグレーション研究所）上野祐子

15:30- 共働きのワークライフバランスについて～イクメン研究者の日常～（豊田中研無機材料研究部）濱口 豪

15:50- 人材戦略としての女性社員活躍推進（三井化学人事部）小林洋子

16:10- 大学等の“男女共同参画推進”状況と私自身の仕事と生活バランス（東工大産学連携推進本部）林ゆう子

16:30- 開会挨拶（男女共同参画推進委員会担当理事）栗原和枝
参加費：無料。懇親会（同日17時より、生協食堂）無料

申込方法：E-mail または当日受付

事前申込：<http://event.csj.jp/danjo/>

問合せ先：日本化学会 企画部 井樋田

電話 (03) 3292-6163

E-mail: danjo@chemistry.or.jp

第19回化学教育フォーラム 新教育課程への期待とその課題

主催：日本化学会 教育・普及部門

日時：3月25日（日）13:30-17:30

会場：SH 会場（第6校舎 614 教室）

中・高等学校では、来年度より新教育課程に移行する。新しい学習指導要領では、小・中・高等学校の系統性が重視されるとともに、理科学習の柱の一つとして「粒子」が挙げられ、中学校3年ではイオンが復活した。現行の教育課程において、中学校でイオンが削除された際には、高等学校の化学や生物でイオン学習やそれを前提とした内容が扱いにくいとする意見があった。現在、中学校では移行措置が3年目に入り、中学校でイオンを学習した生徒が高等学校にも入っている。そこで、イオンなど粒子概念を導入し、一連の問題解決の能力を育んだことによる影響を、中・高等学校の先生方を中心に検証し、さらに、小学校から大学までを通して、新しい教育課程への期待とその課題を探りたい。

プログラム

1. 開会の挨拶 教育・普及部門 部門長 下井 守

2. 趣旨説明 化学教育フォーラム企画小委員会

委員長 松原静郎

全体司会 化学教育フォーラム企画小委員会

委員 鮫島朋美

<13:35-14:55>

3. 科学的な思考力、表現力等の育成を目指して～粒子概念を中心に～
初等中等教育局教育課程課教科調査官 林 誠一

4. 粒子概念の育成を柱とした新しい教育過程
東京学芸大学附属世田谷中学校 教諭 宮内卓也

<15:05-15:55>

5. 高等学校からの意見（仮題）
千葉県立千葉東高等学校教諭 北川輝洋

6. 小学校からの意見（仮題）
渋谷区立広尾小学校 主幹教諭 板木孝悦

7. 大学からの意見（仮題）
筑波大学 教授 守橋健二

8. 大学からの意見 (仮題) 法政大学 教授 山崎友紀
<16:15-17:30>
9. フォーラム 司会
化学教育フォーラム企画小委員会委員 莊司隆一, 柳澤秀樹
10. 閉会の挨拶 普及・交流委員会委員長 齊藤幸一
参加費: 無料
申込方法: 事前申込み不要。直接会場にお越し下さい。
問合せ先: 日本化学会 企画部 大倉
電話(03)3292-6163
E-mail: ohkura@chemistry.or.jp

3.11被災地の復興への歩み —安全な教育・研究環境を求めて

主催: 日本化学会東日本大震災被災者支援委員会
共催: 日本化学会東北支部
日時: 3月26日(月) 9:00-12:00
会場: S4会場(第4校舎独立館B2F DB202教室)

日本化学会東北支部大会で「東北地方の化学教育・研究の被災状況に関する情報交換と今後の対策」を目的として開催されたシンポジウム(2011年9月16日)の内容を基に、年会の場を借り東北支部の共催を得て、同様の趣旨のシンポジウムを全国の会員向けに計画したものです。先のシンポジウムでは、実験室の被害の状況や地震に対する備えなどの紹介はもちろんのこと、免震構造を導入して被害を免れた東北薬科大学の取り組みや、地盤の弱い旧北上川沿いにある石巻専修大学が90mまで鉄杭を打ち込んでいたため被害を受けなかったという報告が話題になりました。これら免震構造建築や堅牢な建物についての報告では、建築設計の工夫によって地震被害が有効に軽減できることを示しており、今後の化学実験棟設計に対する指針に大きく活用できる内容です。このような事実をもっと広く会員に知っていただくとともに、さらには小中高校の被災状況と理科教育の現実等も考慮した化学に特徴的な問題や課題などを具体的かつ包括的に議論し、今後の実効性のある防災対策への一助となることを目指しています。

プログラム

- 09:00-09:05 開会の挨拶(日本化学会東北支部・支部長)(東北大院理)河野裕彦
09:05-09:30 震災への備えとその後の対応: 東北大学・大学院理学研究科の場合(東北大院理)寺田眞浩
09:30-09:55 東日本大震災での石巻専修大学の状況(石巻専修大理工)指方研二
09:55-10:20 東日本大震災で威力を発揮した免震機構—東北薬科大学の事例(東北薬大)吉村祐一
10:20-10:30 休憩
10:30-10:55 東日本大震災からの復興を目指して—福島県立高等学校の被災の状況とその後の対応(福島県教育センター)猪股一教
10:55-11:20 被災学校の現状と日本化学会の化学教育復興への取り組み(筑波大数理)赤阪 健
11:20-11:50 総合討論会
11:50-12:00 総括及び閉会の挨拶(日本化学会東日本大震災被災者支援委員会・委員長)赤阪 健
参加費: 無料
申込方法: 事前申込み不要。直接会場にお越し下さい。
問合せ先: 日本化学会 東北支部 事務局
電話/FAX(022)224-3883
E-mail: nikka.tohoku@chemistry.or.jp

「新しい研究評価時代の 情報発信とは」日本化学会 論文誌シンポジウム2012

主催: 日本化学会 学術情報部
日時: 3月26日(月) 9:30-12:30
会場: SE会場(6号館J611教室)

日本化学会学術情報部門では、論文誌の在り方についてここ数年真剣な議論を繰り返しています。欧米に数々の有力誌がある中で、日本からの化学情報発信の意義とは何でしょうか。一方電子ジャーナル等学術情報の電子化とwebを通じた相互連携が浸透するにつれて、機関や個人の研究評価も複合的に定量化される時

代となりました。さらに、日本学術振興会が長年にわたって行ってきた学術誌の支援も大きな改革が予定されています。新たな研究評価環境と支援体制を見据えながら、日本化学会の論文誌はどのような道を目指すべきか、会員や関係者の皆様を交えた議論を行いたいと思います。

プログラム

1. 開会の挨拶 平尾俊一(学術情報部門長)
2. 企画主旨説明
3. 速報誌(Chemistry Letters)の現状と展望 檜山爲次郎(速報誌編集委員長)
4. web of scienceから研究評価ツールと研究者支援サービスへ 棚橋佳子(トムソン・ロイター)
5. Science Directから研究評価ツールと未来の論文へ 高橋昭治(エルゼビア)
6. 科研費成果公開促進費学術定期刊行物の改訂について 小山西 優(日本学術振興会研究事業部長)
7. 欧文誌(BCSJ)の現状と展望 入江正浩(欧文誌編集委員長)
8. Q&A, デイスカッション
9. 閉会の挨拶
(演者及び内容は変更になる場合があります)

参加費: 無料

申込方法: ①年会に参加登録をされた方: 参加証を携帯の上、会場へお越し下さい。②それ以外の方は以下を参照下さい。

<http://csj.jp/journals/event/2012/sympo03.html>

問合せ先: 日本化学会 学術情報部 電子ジャーナル係

電話(03)3292-6165

E-mail: ejournals@chemistry.or.jp

第2次先端ウォッチング: シングルセル解析による 生命科学の新潮流

主催: 日本化学会学術研究活性化委員会

共催: シングルサーベイヤ研究会

日時: 3月26日(月) 13:30-17:30

会場: SE会場(第6校舎J611教室)

生命科学分野の解析技術はここ10年で飛躍的な進歩を遂げている。これらの先端技術を駆使することによって未知なる細胞機能が明らかになってきた。その中から、細胞個々に特性があることが見いだされ、シングルセルの生物学の必要性が指摘されている。

本企画では、シングルセルバイオロジーに必要な、化学、工学、生物学等の幅広い分野の先生方に、シングルセル解析技術の現状と展望、さらにはアウトプットの側面から、シングルセル解析による医学、生物学研究の進展に関して報告していただく。

プログラム

- 13:30- はじめに(早大理工)竹山春子
13:50- 1細胞中のmRNA計測技術(日立製作所 中央研)神原秀記
14:20- 細胞内生体分子動態の網羅的実測定量への挑戦(京大院農)植田充美
14:50- ES細胞分化プロセスのバイオセンシング: 1細胞解析から細胞チップ開発まで(阪大院工)民谷栄一
15:20- Microcavity arrayを用いた単一細胞集積化技術(東農工大)松永 晃
16:00- 抗原特異的リンパ球の単一細胞レベルでの解析とその利用(富山大院医学薬学・生命融合科学教育)岸 裕幸
16:30- 造血幹細胞の1細胞網羅的遺伝子解析(東京女子医大院医)大和雅之
17:00- 血液を循環するエクソソームによる新規診断方法の可能性(国立がん研究センター)落谷孝広
17:30- 終わりに(日立製作所 中央研)神原秀記
参加費: 無料(希望者には報告書を1,000円で配布)
申込方法: 事前申込み不要。直接会場にお越し下さい。
問合せ先: 日本化学会 企画部 美園
電話(03)3292-6163
E-mail: misono@chemistry.or.jp

第2次先端ウォッチング 高次分子システムのための 分子科学：実験と理論の挑戦

主催：日本化学会学術研究活性化委員会
日時：3月26日(月) 13:00-17:30
会場：SF会場(第6校舎J612教室)

近年、生体系や超分子化学などで極めて高い機能を実現する高度な分子システムの存在が明らかになってきている。これらは複数の分子が協調的に運動することで極めて効率よく精緻な機能が実現されており、この高次元機能を実現する機能のメカニズムを分子論的に解明することは21世紀の化学が担う大きな命題である。そこで高次分子システムに対する研究の現状とその展望を論じる先端ウォッチングを企画する。実験側からは分子科学とその関連分野で発達した計測法とその成果、理論からは高次分子システムを解明するための最新の分子科学理論を概観し、両者の協調による高次分子システムへの挑戦を展望する。

プログラム

13:00-13:10 趣旨説明(東工大資源研) 藤井正明
13:10-13:30 界面の高次分子システムを覗く—プローブ顕微鏡(神戸大院理) 大西 洋
13:30-13:50 シミュレーションとNMRの融合研究による水中の糖鎖構造ダイナミクスの解析(理研) 杉田有治
13:50-14:10 凝縮系ダイナミクス(分子研) 齊藤真司
14:10-14:30 クラスタ分光で探る水の構造(東北大院理) 藤井朱鳥
14:30-14:50 芳香環ナノ空間を作る高次分子システム(東工大資源研) 吉沢道人
14:50-15:10 休憩
15:10-15:30 生体高次分子システム—実験からの挑戦(阪大院理) 水谷泰久
15:30-15:50 低温一分子分光によるタンパク質へのアプローチ(東工大大院理) 松下道雄
15:50-16:10 1分子実験を読み解くための新しい実践型分子理論を目指して(北大電子研) 小松崎民樹
16:10-16:30 同符号マイクロイオン間の実効引力とSupraparticle Chemistry(九大院理) 秋山 良
16:30-16:50 光生物学システムの励起状態と機能の理論的アプローチ(京大院工) 長谷川淳也
16:50-17:30 パネルディスカッション：高次分子システムへの挑戦(理研) 田原太平、(東大分生研) 北尾彰朗、(九大院理) 関谷 博、(東工大資源研) 藤井正明
参加費：無料(希望者には報告書を1,000円で配布)
申込方法：事前申込み不要。直接会場にお越し下さい。
問合せ先：日本化学会 企画部 美園
電話(03)3292-6163
E-mail: misono@chemistry.or.jp

JSTさきがけ研究領域合同 国際シンポジウム 「持続する社会を先導する光科学： 環境・エネルギー・機能材料」

主催：科学技術振興機構(JST)・日本化学会
共催(予定)：日本化学工業協会
日時：3月26日(月)・27日(火)
会場：SJ会場(第6校舎623教室)

太陽光エネルギーなど自然再生エネルギーの本格的な利用が喫緊の課題となっている。平成20～22年度発足した科学技術振興機構さきがけ4研究領域「光の利用と物質材料・生命機能」「太陽光と光電変換機能」「光エネルギーと物質変換」「藻類・水圏微生物の機能解明と制御によるバイオエネルギー創成のための基盤技術の創出」では、「光の利用とエネルギー、物質変換」を共通項として、人類にとって最大の危機とされる資源・エネルギー、環境問題に積極的に取り組んでいる。このうち「光エネルギーと物質変換」研究領域では、一昨年3月の日本化学会第90春季年会で第1回国際シンポジウム「光エネルギーと物質変換：人工光合成の未来」を開催し、日本化学会会員を中心に500名を超える参加者

を集め、この問題への関心の高さが示され好評を博した。そこで第2回目となる今回は、化学関連のさきがけ4研究領域合同のシンポジウムを企画した。具体的には、①2010年ノーベル化学賞受賞者による特別メッセージ、②4研究領域を含む広く若手研究者へのメッセージとしての基調講演、③さきがけ4研究領域における世界最先端研究者による特別講演、④研究領域の研究総括による研究領域の紹介、⑤4研究領域研究者による研究の現状と将来展望の研究発表・討論、で構成する。これにより、さきがけ4研究領域の研究の現状と研究課題の重要性及び研究領域への参画を春季年会参加若手研究者に広く情報発信し、4研究領域を含む化学関連研究者への科学的刺激とさらなる研究推進に資する。

プログラム

第1日【3月26日(月)】

09:45- 特別メッセージ1：さきがけ研究に期待するもの(科学技術振興機構顧問) 北澤宏一
10:00- 基調講演：若手研究者に必要なセンス 光触媒研究を例として(東京理科大学長) 藤嶋 昭
○JST さきがけ研究領域・研究紹介
藻類・水圏微生物の機能解明と制御によるバイオエネルギー創成のための基盤技術の創出
10:40- 研究領域紹介(研究総括/東京農工大学長) 松永 是
11:00- 特別講演：Genomics-Enabled Exploration of the Metabolic Secrets of Marine Diatoms (Director of Environmental and Evolutionary Genomics Institute of Biology, Ecole Normale Supérieure (ENS) Paris, FRANCE) Chris Bowler
11:45- 研究紹介
① Perspectives of research on increasing photosynthesis in cyanobacteria by overcoming the limitations of CO₂-fixing enzyme, RuBisCO (奈良先端大) 藤田弘樹
② Photosystem reaction by using near infrared light (東京理科大) 鞆 達也
③ Biofuel production in CO₂-absorbing microalgae *Euglena gracilis* (阪府大) 中澤昌美
14:00- JST さきがけ/CREST 事業紹介(科学技術振興機構イノベーション推進本部)

○JST さきがけ研究領域・研究紹介

光の利用と物質材料・生命機能

14:30- 研究領域紹介(研究総括/奈良先端大物質創成科学研究科特任教授) 増原 宏
14:50- 特別講演：Multiscale, Superresolved, Ultrasensitive Optical Molecular Imaging (The Dean Willard Chair in Chemistry and Biochemistry, Dept. of Chemistry and Biochemistry, Dept. of Physiology, California NanoSystems Institute, UCLA) Shimon Weiss

15:35- 研究紹介

① In-situ Optical Observation for Elucidating Antifreeze Mechanism of Water by Proteins (北大) 佐崎 元
② Cell and micro-organism manipulations with photo-functional and photo-controllable proteins (名大) 須藤雄気
③ Time-dependent molecular orbital imaging with an soft-Xray laser pulse (早大) 新倉弘倫
17:30- 交流会：飲物・軽食等を準備しミキサー風を実施予定。参加費1,500円(予定)。

第2日【3月27日(火)】

○JST さきがけ研究領域・研究紹介

太陽光と光電変換機能

10:00- 研究領域紹介(研究総括/九州工大生命体工学研究科教授) 早瀬修二
10:20- 特別講演：Novel Materials and Techniques for Producing Flexible Dye Sensitized Solar Cells on Plastic Substrates (Monash Univ. Australia Professor) Yi-Bing Cheng
11:05- 研究紹介

① Near-IR Dye Sensitization of Polymer Solar Cells (京大) 大北英生
② Dynamics of Multiple Exciton Generation in PbS Quantum Dots (電通大) 沈 青
③ Creation of new type solar cells using chalcopyrite phosphide semiconductors (京大) 野瀬嘉太郎

13:30- 特別メッセージ2：Tandem ZACA-Pd-Catalyzed Cross-Coupling as Widely Applicable and Selective Routes to Chiral Organic Compounds (2010 ノーベル化学賞受賞者・米国パデュー大学特別教授) 根岸英一

○JST さきがけ研究領域・研究紹介

光エネルギーと物質変換

14:00- 研究領域紹介(研究総括/首都大東京戦略研究センター教授) 井上晴夫
14:20- 特別講演：Bio-inspired Solar Energy Conversion (Dept. of

Chemistry and Biochemistry, Center for Bio-Inspired Solar Fuel Production, ASU Regents' Professor) Devens Gust

15:05- 研究紹介

① Development of Large Photofunctional Porphyrin Arrays (京大) 荒谷直樹

② Biological methane production and anaerobic oxidation of methane (マックスプランク陸生微生物学研) 嶋 盛吾

③ Development of visible-light-responsive photocatalyst systems toward solar hydrogen production (北大) 阿部 竜

16:05- 閉会挨拶 (日本化学会会長・電気通信大学教授・東京大学名誉教授) 岩澤康裕

16:10-17:30 ポスターセッション 於 慶応義塾大学日吉キャンパス日吉記念館

さきがけ4研究領域研究者によるポスター発表。ポスター発表の演題・発表者は春季年会プログラムをご覧ください。

参加費：無料

申込方法：JST さきがけ「光エネルギーと物質変換」研究領域 HP からお申し込みいただくか、または JST 合同シンポジウム参加希望と明記し、①氏名、②所属・職位、③連絡先住所・郵便番号・電話・FAX、E-mail を明記し下記宛お申し込み下さい。当日参加も可能です。なお、本シンポジウムのみ参加希望の場合には春季年会の参加登録は不要です。

問合せ先：192-0397 八王子市南大沢 1-1

首都大学東京プロジェクト研究棟 302 号室 科学技術振興機構 さきがけ「光エネルギーと物質変換」領域事務所
電話(042)653-3415 FAX(042)653-3416
E-mail: tamaki@chem-conv.jst.go.jp

ケミカルレコード・レクチャー The Chemical Record Lecture 2012

主催：日本化学会・Wiley-VCH

日時：3月27日(火) 10:30-11:20

会場：H5 会場 (第6校舎 J634 教室)

日本の化学関係8学協会の雑誌として刊行した総合論文誌“The Chemical Record”は、2011年より日本化学会の雑誌としてリニューアルしました。Wiley-VCH との本格的な提携によりインパクトファクターも着実に向上しております。山本編集委員長による新しい編集体制の下、本年も年会時に TCR Lecture を開催いたしますので、多くの皆様のご参加をお願いいたします。

プログラム

10:30- Non-Covalent Synthesis of Complex Supramolecular Systems, Prof. Dr. E. W. Meijer (Institute for Complex Molecular Systems, Eindhoven Univ. of Technology)

参加費：無料(年会登録者に限る)

申込方法：事前申込み不要。直接会場にお越し下さい。

問合せ先：日本化学会 学術情報部 TCR 係

電話(03)3292-6165

E-mail: tcr@chemistry.or.jp

化学の夢ロードマップ

主催：日本化学会学術研究活性化委員会

日時：3月27日(火) 13:30-16:30

会場：SA 会場 (第4校舎独立館 D205 教室)

環境・エネルギー・医療など、人類が抱える諸問題の解決は、今や焦眉の急となっている。その回答を用意し得る学問として、化学に寄せられている期待は極めて大きい。一方で、他学問分野との融合・連携、産業構造の変化、アジア諸国の台頭など、化学を取り巻く環境は急速に変化している。

こうした状況を受け、日本化学会では「30年後の化学が目指す姿」を設定すべく、「化学の夢ロードマップ」の編纂に取り組んできた。ここに寄せられたアイデアを元に、今後化学が成し得ること、成すべきことは何か、本セッションにおいて討論を行う。

プログラム

13:30- 趣旨説明(神奈川大理) 上村大輔

13:40- 日本学術会議「我が国初の科学の夢ロードマップ：科学者が描く現在・未来の課題」(日本化学会会長、21期日本学術会議第3部(理学・工学)部長) 岩澤康裕

14:10- 化学の夢ロードマップ：化学の貢献(学術研究活性化委員会委員長、東大院理教授) 中村栄一

14:40- 論文データから見た日本の化学の動向分析(トムソン・ロイター社) 古林奈保子

15:20- パネル討論

参加費：無料(希望者に資料頒布。2,000円)

申込方法：当日直接会場にお越し下さい。

問合せ先：日本化学会 企画部 美園

電話(03)3292-6163

E-mail: misono@chemistry.or.jp

第29回化学クラブ研究発表会

主催：日本化学会関東支部

後援：文部科学省(予定)

日時：3月27日(火) 9:00-17:30(予定)

会場：SG 会場(第6校舎 613 教室)及び

SH 会場(第6校舎 614 教室)

当支部では化学振興事業の一環として、中学校・高等学校の化学クラブや理科クラブの化学に関係ある研究成果の発表の場として、化学クラブ研究発表会を開催しており、今回、第29回を開催します。

プログラム

開始・終了時間及びプログラムは関東支部 HP (<http://kanto.chemistry.or.jp/>) でご確認ください。

参加費：無料

申込方法：当日会場にお越し下さい。

問合せ先：日本化学会 関東支部 化学クラブ係

電話(03)3292-6163

E-mail: kanto@chemistry.or.jp